

編集後記

「いい仕事をさせて貰った」

三中・山城高百年誌の編集、校正を終え、出来上がってきた試刷を手にした時、編集委員の口について出た第一声は右の言葉だった。

顧みれば、編集を依頼された時、百年誌にふさわしい、どのようなものを編集すればよいのか、委員の大半は不安を感じた。幸いにして、作家の渡辺一雄氏に編集委員の一員に参加して頂き、その協力を得て、取りかかることが出来た。

二〇〇三年春に、編集企画会議を始めから、原稿の依頼を行ったが、なかなか集まらないので、電話での催促、あるいは、直接出向いての依頼と、編集委員達は東西に奔走した。

編集会議もこの間、何十回ともち、思

えば気骨の折れる作業の連続であったが、委員の口から愚痴ひとつ出なかった。

母校を思う熱い気持ちと、届いた原稿を読んだ時の感動が、その苦勞を上回ったからである。いい学校に学んだという誇りをそれぞれが実感した。

原稿は、同窓生だけでなく、退職された教師の方々、在校生からも募り、紙面を飾った。三中・山城高と母校を思う熱い気持ち、次代の人々にも伝えられるものとひそかに自負している。

終わりに、ご多忙の中、稿をお寄せ頂いた知事、教育長、校長先生、恩師の方々をはじめ同窓の皆様、心から謝意を申し上げます。

平成十八年五月吉日

(野村)

追記

今回の編集会議には我々本部の委員の他に同窓の方々のご協力を得、また、特に創立百年記念事業委員会委員長である森貞男氏（山城2回）には直接適切なご指導を頂いた。

また、学校当局にも会議場の提供など、いろいろとご協力を賜ったことを附記し、感謝の意を表します。

なお、常任の編集委員は左記の通りである。

記

野村 隆一（三中三十二回）

藤本 泰雄（三中三十五回）

小川 一雄（三中三十七回）

高林 藤樹（三中三十八回）

中田 琢治（山城二回）

三中西久雄（山城四回）

丹保 重雄（山城十四回）

高柳 久子（山城十四回）

平成十八年五月二十日

印刷

平成十八年五月二十七日

発行

京三中

山城高

創立百年記念誌

編集兼発行人

野村隆一

(三中32回卒)

印刷及び製本

糺

書

房

高林藤樹(三中38回卒)